

石巻市防災シンポジウムでコーディネーターをつとめました(2017/03/12)

テーマ：地域防災、2016年11月22日福島県沖地震
場所：こもれびの降る丘 遊楽館（宮城県石巻市）

3月12日（日）、こもれびの降る丘 遊楽館（宮城県石巻市）を会場として、石巻市が主催する「石巻市防災シンポジウム」が開催されました。石巻市では、石巻市防災基本条例が制定されており、東日本大震災が発生した3月11日を含む1週間を「防災週間」として定め、市民や企業の防災啓発を行うとともに、震災の記憶を風化させないよう、語り継ぐ場として活動を進めています。そして防災週間中には、毎年「石巻市防災シンポジウム」が開催されています。

今年度のシンポジウムは、3部構成となっており、第1部では、パネルディスカッション「津波警報発表時の対応を市民で検証する～平成28年11月22日福島県沖の地震津波～」が行われました。昨秋に発生した地震・津波を受けて、主に市民がパネリストとなり、当時の避難行動を検証する目的でパネルディスカッションが企画されました。パネリストには、学校の立場から青葉中学校・校長・横山秀敏氏、住民の立場から上釜町内会自主防災会・事務局長・井上達彦氏、事業者の立場から白謙蒲鉾店・常務取締役・白出雄太氏、行政の立場から石巻市総務部・次長・二上洋介氏が登壇し、当研究所の佐藤翔輔助教（情報管理・社会連携部門）がコーディネーターをつとめ、ディスカッションの進行とまとめを行いました。

会場をほぼ埋め尽くす450名もの方が集まり、パネリストの方々の議論に熱心に聞き入っていました。



パネルディスカッションの様子



佐藤翔輔助教



会場の様子